

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【沖縄県うるま市】

実施報告書 (概要版)



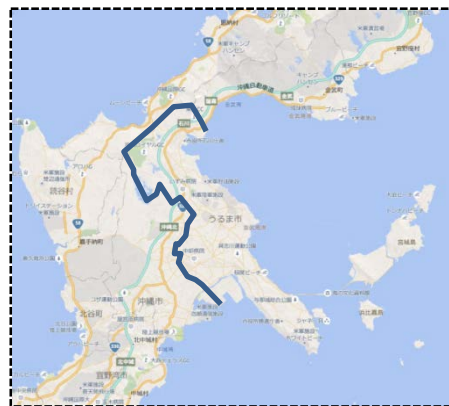
沖縄県うるま市について

うるま市は、平成17年に具志川市、石川市、勝連町及び与那城町が合併して誕生、那覇市より北東へ25 km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、有人・無人を含めて8つの島々があり美しい風景と豊かな自然環境に恵まれています。

農業面では、豊富な水資源と肥沃で広い土地に恵まれ、かつて生産量が沖縄一を誇った砂糖キビの他、野菜類、ニンジン、ミカン、オクラ等が栽培されています。

工業面では、加工交易産業の拠点として、金属加工業、食品加工業、建築資材卸売業、半導体製造業など多種多様な企業展開が行われています。

文化・観光面では、15世紀に活躍した歴史上著名な阿麻和利の居城として知られた勝連城跡があり、闘牛のメッカとして、春、秋の全島闘牛大会等が開催されて盛況を呈し、ビーチでは夏場の海水浴客やマリンスポーツで賑っています。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月2日10：00に、沖縄本島南東沖を震源とするM8.8規模の地震が発生し、うるま市では震度5強を記録、地震発生直後より大津波警報が発表され、うるま市沿岸には26分後に約6.7mの津波が押し寄せる想定の下で、うるま市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置し、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成29年11月2日（木）10：00～10：45
シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練
指定避難所、福祉避難所の開設訓練
ヘリによる物資搬送訓練、消火・救出・救助訓練
炊き出し訓練、災害対策本部設置運営訓練
気象台事前防災研修会（10月31日に実施）

■主催：内閣府、うるま市（共催：沖縄県）

■参加者数：約23,900名

■参加機関：自治会・自主防災組織、市内企業、小・中学校、幼稚園・保育所、高校、気象台、警察、消防、自衛隊等

当日の訓練内容

10:00～10:05 シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、地域住民、企業、学校の方々が、それぞれの場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

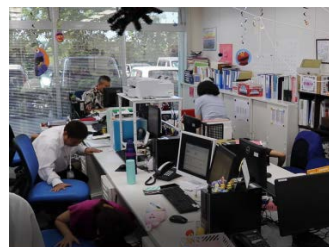
▼小学校



▼中学校



▼市内企業



10:05～10:45 津波避難訓練

シェイクアウト訓練後、小学校・中学校では各々示された高台の津波避難場所へ、市内企業はビル屋上へ垂直避難を実施した。

▼小学校



▼中学校



▼市内企業



10:05～10:45 物資搬送・救出・消火訓練

県警ヘリによる物資搬送、警察レンジャーによる救出、消防による消火訓練が実施された。

▼ヘリによる物資搬送



▼警察レンジャーによる救出



▼消防による消火



10:05～10:45 炊き出し訓練、災害対策本部設置運営訓練、資機材の展示

避難所における自治会による炊き出し訓練、市役所における災害対策本部設置運営訓練及び防災資機材の展示が実施された。

▼炊き出し訓練



▼災害対策本部設置運営訓練



▼防災資機材の展示



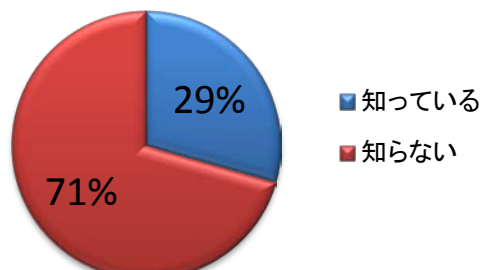
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：309人）

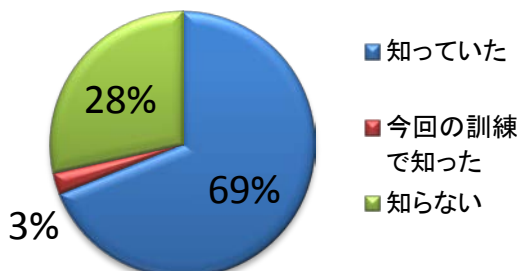
問 地震・津波防災訓練に参加して、どう思いましたか？（回答数：309人）



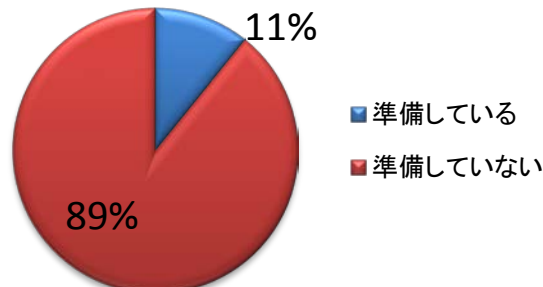
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：306人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか？（回答数：306人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？（回答数：306人）



訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、高校生、幼稚園・保育所の園児を含め、企業や地域住民等を合わせ約23,900名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、住民に対しては訓練場所において、小学生は学校に戻ってアンケートに記入をして頂き、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「防災意識の定着のため、この訓練は必要」、「初めて参加したが、続けてほしい」、「地域の方々との交流を兼ねて、時々こういう機会を持ってほしい」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 学校主体の訓練となっているので、地域を交えた訓練が必要。
- 要配慮者等の確認や避難誘導訓練を実施すべき。
- 企業と連携を図った訓練を行った方が効果がある。
- 防災の放送が聞こえ難かった。